

にじのおと

| 日 | 曜 | 主食 | 副 食 | 3時おやつ |
|-----------------|---|-----|---|-------------------|
| 1 | 水 | | 〈年始休業日〉 | |
| 2 | 木 | | 〈年始休業日〉 | |
| 3 | 金 | | 〈年始休業日〉 | |
| 4 | ± | | 〈年始休業日〉 | |
| 5 | 日 | | | |
| 6 | 月 | ごはん | みそ汁(キャベツ・コーン)、大豆の天ぷら、きゅうりの酢の物、もも缶 | 牛乳、肉みそうどん |
| 7 | 火 | ごはん | みそ汁(さつま芋・わかめ)、さばとごぼうの煮つけ、キャベツの胡麻マヨネーズあえ、りんご | 牛乳、みたらし団子 |
| 8 | 水 | ごはん | ふりかけ、みそ汁(なす・玉ねぎ)、ふんわりつくねのあんかけ、いんげんのツナあえ、キウイフルーツ | 牛乳、小豆蒸しパン |
| 9 | 木 | パン | 野菜スープ、コロッケ、ゆで野菜、みかん | 牛乳、昆布おにぎり |
| 10 | 金 | ごはん | みそ汁(小松菜・油揚げ)、鮭のごま焼き、筑前煮、バナナ | 牛乳、黒みつときなこのミルクプリン |
| 11 | ± | ごはん | みそ汁(豆腐・わかめ)、親子煮、オレンジ | 牛乳、チヂミ |
| 12 | 日 | | | |
| 13 | 月 | | 〈成人の日〉 | |
| 14 | 火 | ごはん | みそ汁(玉ねぎ・油揚げ)、白身魚のポテトバター焼き、きゅうりの華風サラダ、りんご | 牛乳、白玉団子 |
| 15 | 水 | ごはん | じゃこごまおにぎり、ちゃんぽんラーメン、みかん | 牛乳、寒天フルーツポンチ |
| 16 | 木 | パン | 豆乳スープ、ベーコンオムレツ、パスタサラダ、キウイフルーツ | 牛乳、青菜カップケーキ |
| 17 | 金 | ごはん | みそ汁(大根・なめこ)、赤魚の照り焼き、きんぴらごぼう、バナナ | 牛乳、大学芋 |
| 18 | ± | ごはん | みそ炒め丼、そうめん汁、ブルーベリーヨーグルト | 牛乳、ツナパン |
| 19 | 日 | | | |
| 20 | 月 | ごはん | 五目みそ汁、厚揚げのそぼろ煮、白菜ののりあえ、キウイフルーツ | 牛乳、人参ドーナツ |
| 21 | 火 | ごはん | おかず汁、さばの塩焼き、キャベツと油揚げの煮浸し、バナナ | 牛乳、オレンジゼリー |
| 22 | 水 | ごはん | えびと野菜のカレー、白菜とハムのサラダ、フルーツポンチ | 牛乳、さつま芋のガレット |
| 23 | 木 | パン | ポテトスープ、肉団子の揚げ煮、キャベツのツナマヨネーズあえ、オレンジ | 牛乳、ごまみそ焼きおにぎり |
| 24 | 金 | ごはん | けんちん汁、さけの西京焼き、ひじきとほうれん草のサラダ、りんご | 牛乳、コーンマヨトースト |
| 25 | 土 | ごはん | ホワイトシチューライス、きゅうりとコーンのサラダ、みかん | 牛乳、ホットアップルケーキ |
| 26 | 日 | | | |
| 27 | 月 | ごはん | みそ汁(もやし・えのき)、豚肉の柳川風煮物、春雨サラダ、キウイフルーツ | 牛乳、チョコっとフレンチ |
| 28 | 火 | ごはん | 豚汁、白身魚のフライ、ほうれん草のサラダ、オレンジ | 牛乳、豆乳もち |
| 29 | 水 | ごはん | ミートスパゲティー、きのこのスープ、フルーツゼリー | 牛乳、パウンドケーキ |
| 30 | 木 | _ | 野菜スープ、ハンバーグ、ブロッコリーのミモザサラダ、みかん缶 | 牛乳、手作りわかめおにぎり |
| 31 | 金 | ごはん | みそ汁(チンゲン菜・大根)、たらの磯辺焼き、人参シリシリー、オレンジ | 牛乳、きな粉ラスク |
| 「だしの効果」でおいしく食べる | | | | |

うどん屋さんから漂う「だし」の香り。日本人にとっては身近で親しみ深く、食欲がそそられますが、「だし」の魅力は、そのうま味(UMAMI)や風味にとどまらず、健康への有用性も数多く示されているところです。今回は、「だし」についての知識を深め、文化的で健康的な食生活をめざしましょう。

★だしの効果

○健康の維持のつながる「だし」

だしのうま味が消化を助ける

昆布に含まれるグルタミン酸は、胃液の分泌を促すことがわかっています。病気明けや厚さで食欲がないときには、 だしを使った「汁」を飲むと、無理なく食べ進めることができます。

エネルギーの摂り過ぎを防ぐことができる

だしのエネルギーは、100mlでたったの約3キロカロリー。肉や魚と同じアミノ酸を含むだしは、食べた時に満足感を得られます。 低カロリーで満足感のあるを使った食事は、エネルギーの過剰摂取を防ぐことができます。

減塩につながる

だしを効かせれば、なんと20%~30%も減塩することができます。子どもの頃から薄味に親しんでおいしく食べることは、 将来の健康につながります。だしのうま味を活かして食塩の摂取量を減らしましょう。